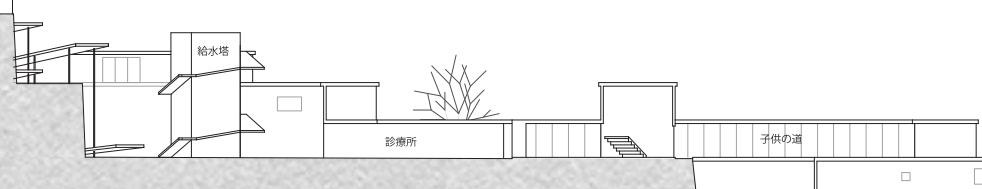
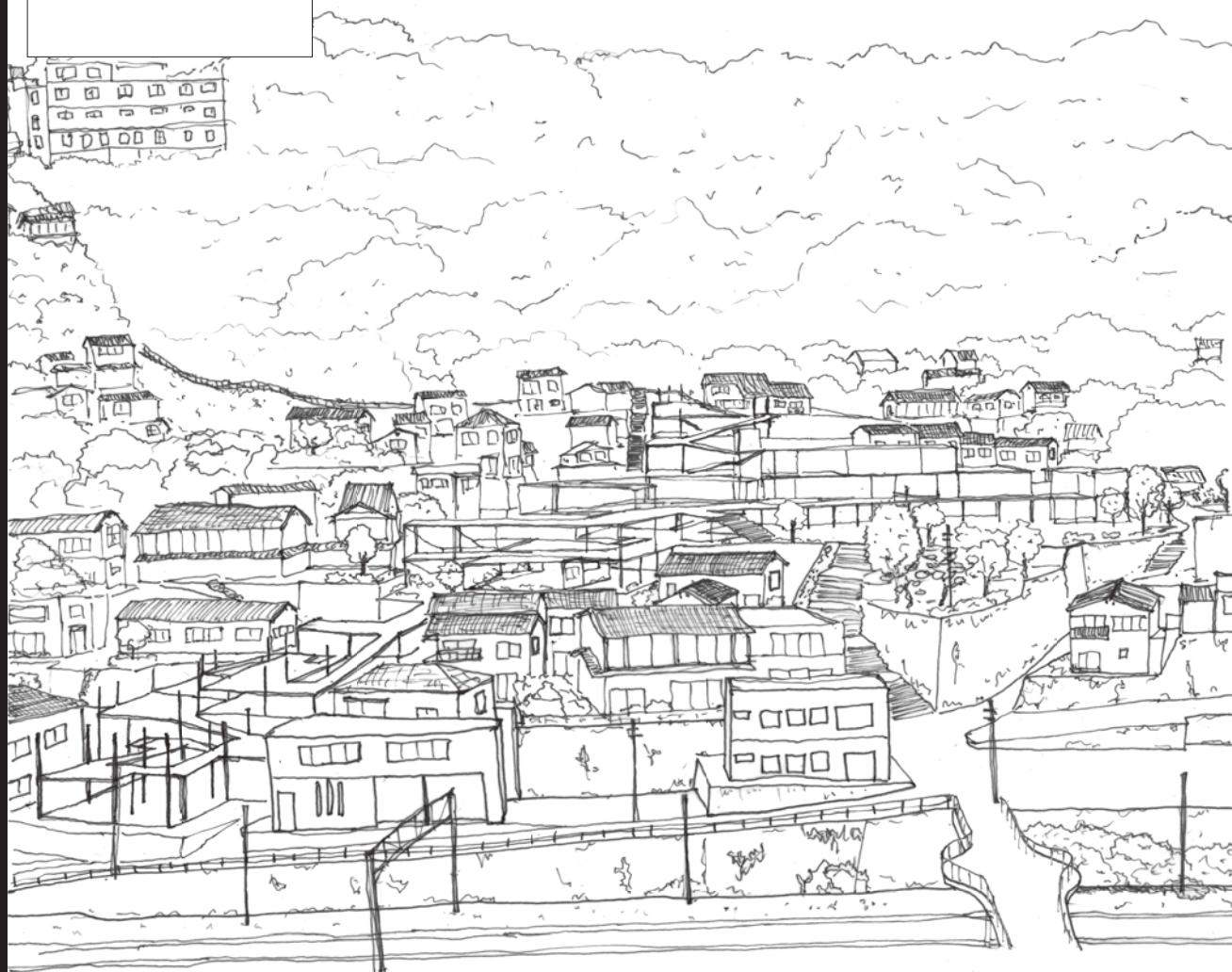


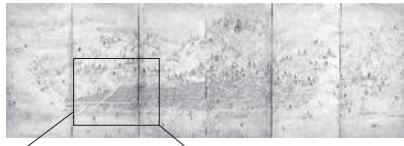
# 地形と暮らす学校

広島県尾道市の斜面住宅地において、周囲と断絶した小学校を解体し、子供達が街の中で学び、そしてこれからの中を支えるインフラとしての小学校への建て替えを提案する。尾道は、階段敷地という街の構造ゆえ、魅力的な街並みが残っていると同時に、様々な問題がある。この街において、小学校というのは教育するための施設ではなく、街のこれからを担う公共建築であるべきである。



# 01. 尾道斜面地の歴史

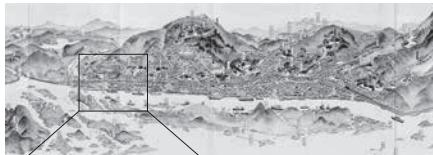
## ■寺社地 江戸時代(1775年)



江戸期、斜面地には寺社のみが  
あったとされ、人は住んでいなかつた。最盛期には83カ寺を数えたが、その後多くが廃寺され、  
現在は25カ寺となっている。今も斜面地の地主は大半が寺社である。



## ■住宅地へ 昭和8年(1833年)



1891年(明治24年)に山陽鉄道が開通し、1951年(昭和26年)に国道2号線が開通したことにより、路線地居住者の立ち退き代替地として斜面が当てられ、また商いで成功を収めた人々も別荘地を求めていたので、斜面地は新興の住宅地、別荘地としておおいに栄えた。



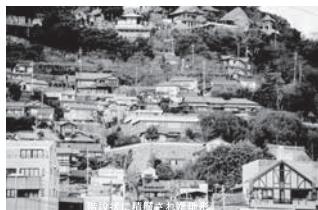
## ■住宅地として残る 現在(2020年)



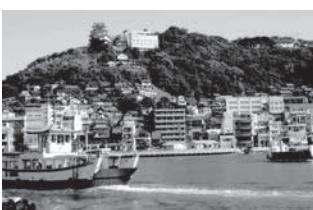
# 02. 尾道の現状

## ■取り残された斜面地

尾道は石垣によって造成され、それが段々畳のように集積した階段地形と、家と家、石垣と家の間を車が通れないくらい細い階段と坂道が通る街である。



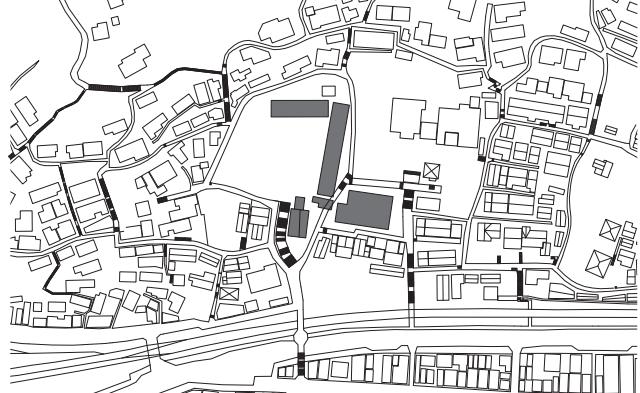
地形のおかげで大規模な更新や再開発は行われず、住宅が密集して建つ街並みが保たれてきた。



しかし、移動の困難さや、下水道が未整備であること、住宅の劣化、人口減少、高齢化、などにより空き家、空き地が増えている。



## ■住宅地の中心にある小学校

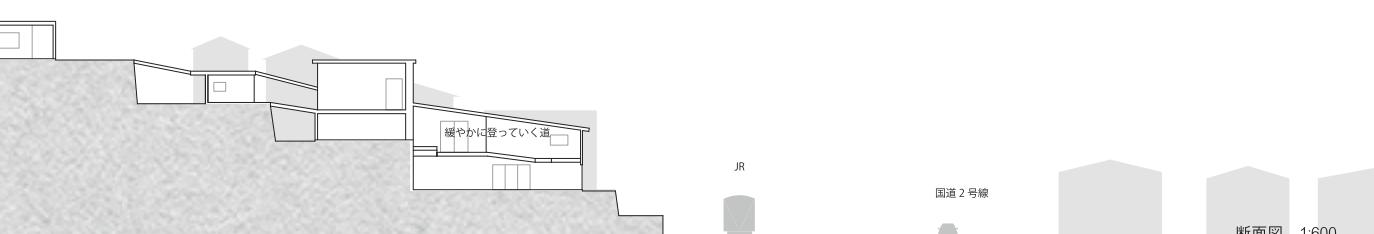


住宅地の中にある小学校で、平地を作るための大規模な土地の造成によって周囲と断絶している。しかし、大きなグラウンドは災害時の避難場所、そしてこの場所は斜面地の中で車が入ってこれる唯一の場所なので、パキュームカーがやってきたり、救急車や消防車がやってこれるなど、街や住人にとって重要な場所である。



密集住宅地の中にある巨大なヴォイド

学校の周りの空き地



# 03. 尾道のこれからのために

地形によって建物が更新されず死にゆく街で、閉じられた小学校を建て替えることで、街の構造を変え、周辺の更新を促進すると共に、子供と大人が一緒に学べるような街になることを目指す。

## ■地形に対する新たな建ち方

尾道の斜面地は造成により人工的段階地形を形成しており、崖と家の間を細い段階や坂道が通っている。

### 地形によって様々な問題が生まれている

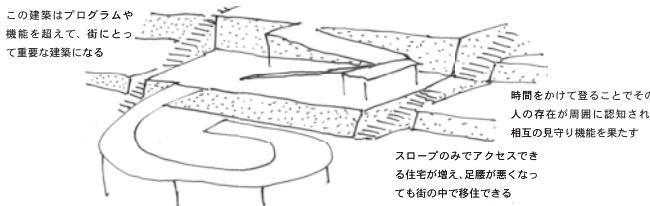
- ・道が細く、救急車、消防車が入れない
- ・足が悪くなると引っ越しなくてはならない
- ・住宅が密集して建っており、火事が起きると大惨事になり、逃げ込む場所もない
- ・高齢化、人口減少による空き家、空き部屋

この街において、新しく建築を建てる意味

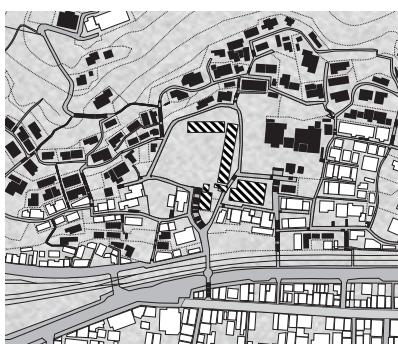
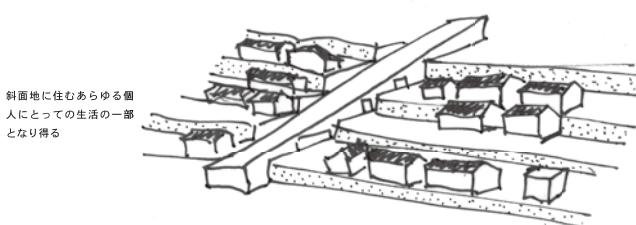
II

地形に対して新たな建築の建ち方を示し、街の構造を改善すること

1.男坂の様に急な縦の道に対して、女坂の様に緩やかに登っていく



2.縦長に建つことで、建築全体が斜面地全体の縦動線になり、どこからでも平坦な横の道からアクセスできる



スロープのみでアクセスできる住宅が増える



## ■学びは生活の中へ

現在の小学校は、堀に囲まれ、社会とは断絶した空間で教育が行われている。しかし、塾や習い事、読書や人の会話にさえも興味の余白や学びはあると言える。学びの中心が、先生と生徒だけの学校社会から、多様な人がいる街における日常生活に映るような学校のあり方を探る。



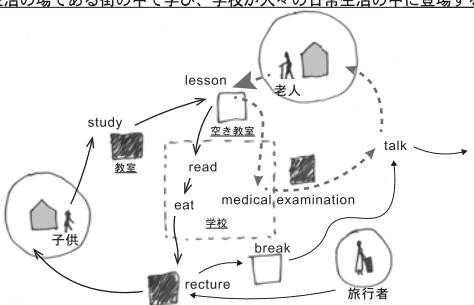
1.ホームルームを解体し、子供だけの空間にロッカー、パブリック空間に教室を配置し、街を移動して学ぶ



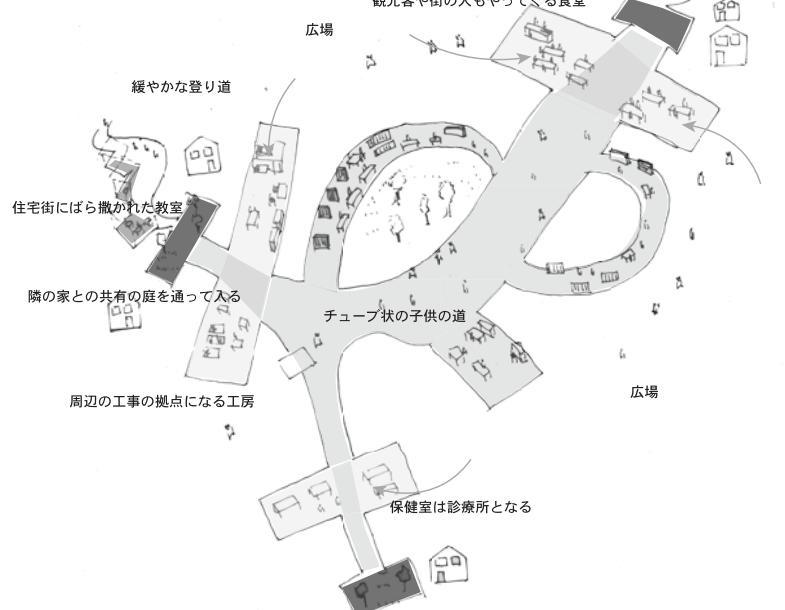
2.学校社会のためだけに存在した機能を強化し、解放することで、学校が街のインフラとして振る舞う



生活の場である街の中で学び、学校が人々の日常生活の中に登場する

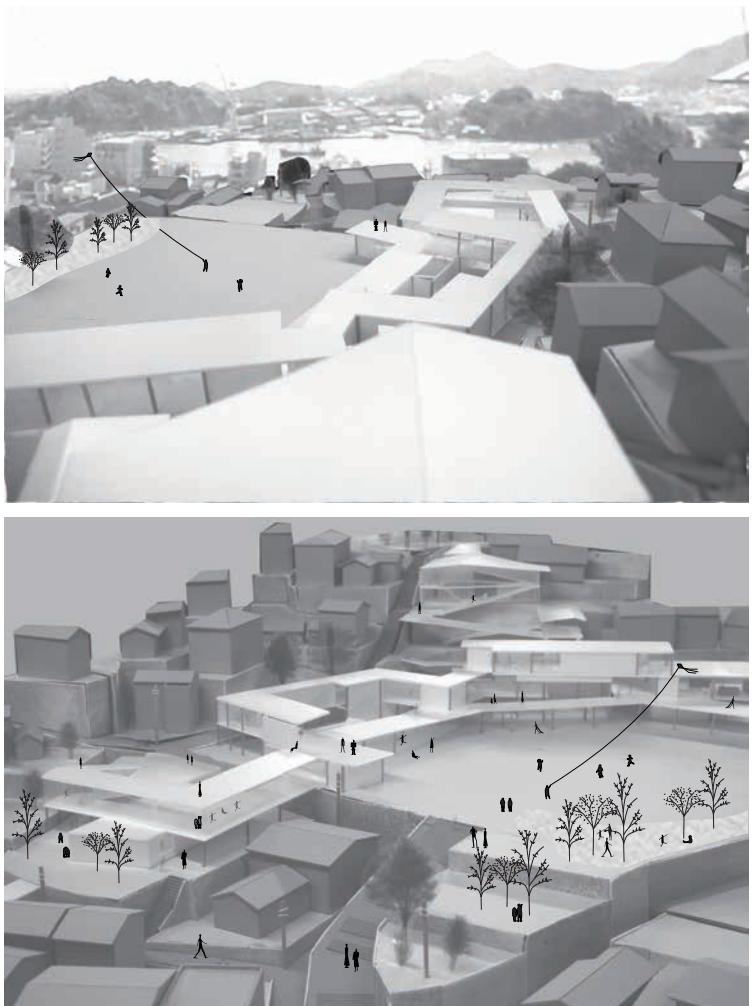
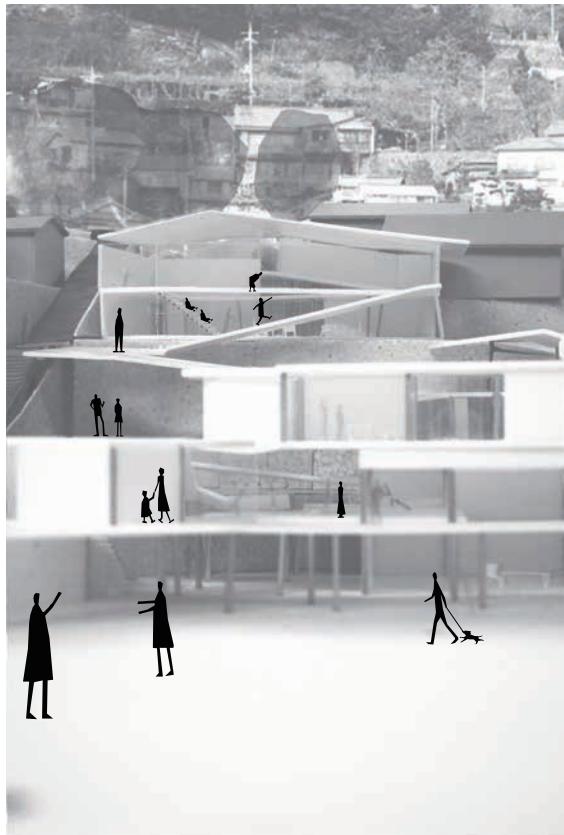


## ■街に根をはるように建つ



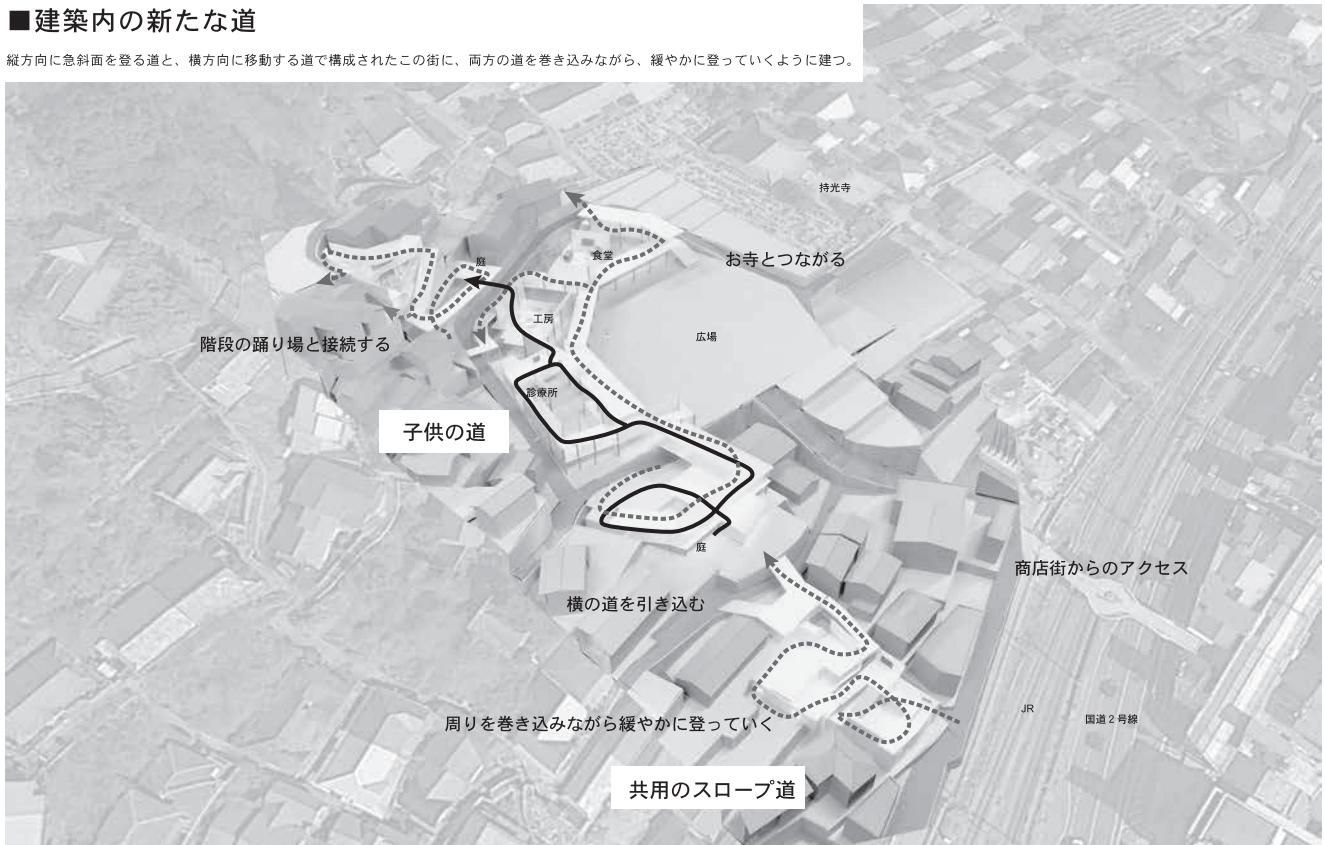
## ■ 階段地形に生まれた新たな居場所

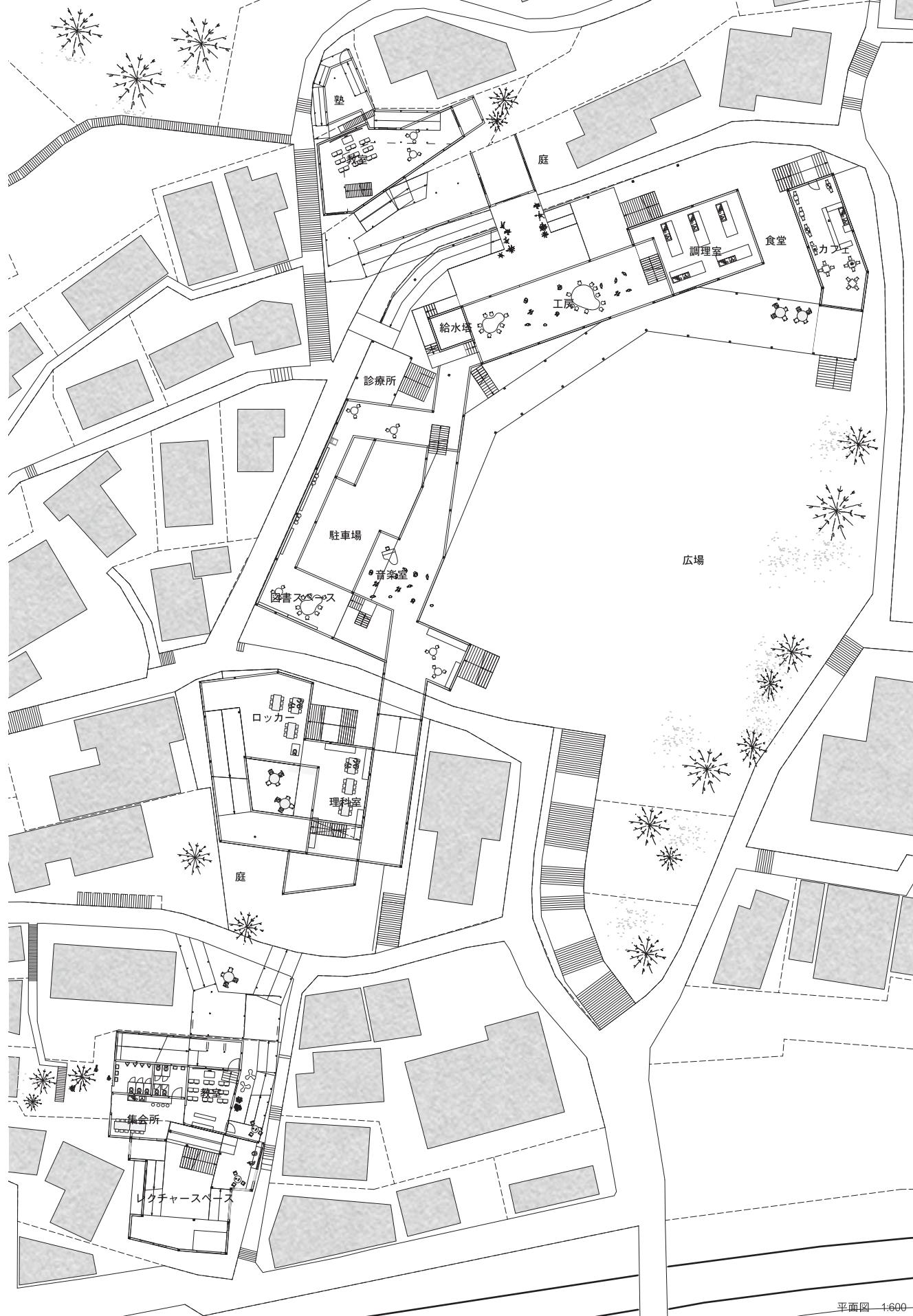
急斜面で暮らすために先人が造成を繰り返したことによって生まれた階段地形という環境に対して、張り付くように、囲うように、建築が様々に建つことで、この地形自体が建築であるかのように、また、地形こそが建築であるかのように振る舞い始める。



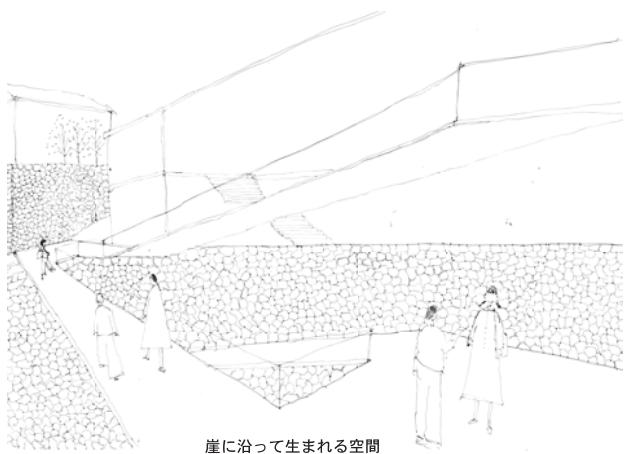
## ■ 建築内の新たな道

縦方向に急斜面を登る道と、横方向に移動する道で構成されたこの街に、両方の道を巻き込みながら、緩やかに登っていくように建つ。

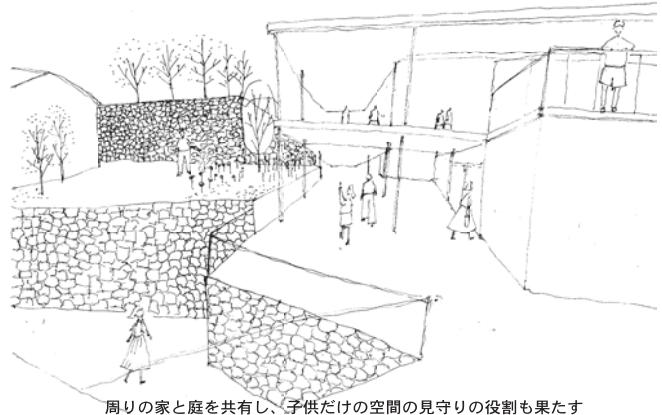




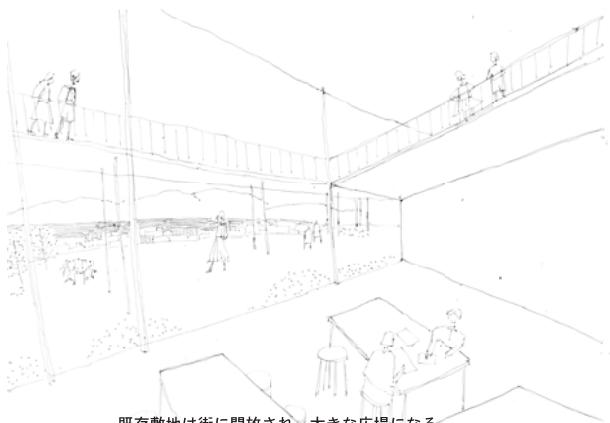
平面図 1:600



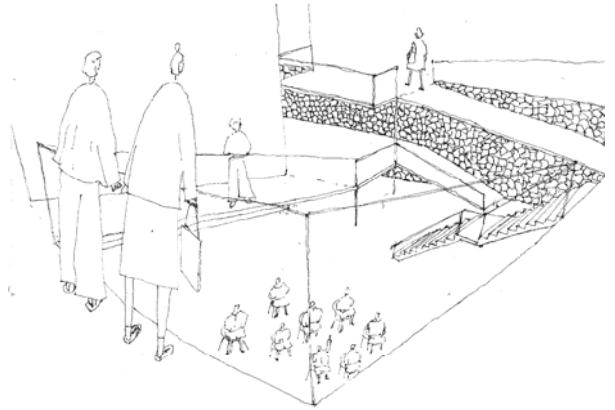
崖に沿って生まれる空間



周りの家と庭を共有し、子供だけの空間の見守りの役割も果たす



既存敷地は街に開放され、大きな広場になる



女坂を作るよう緩やかに登っていくスロープ